

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和7年6月分【埋立中共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター



# 目 次

## I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 ..... I - 1
- 2. 工事の実施状況 ..... I - 2
- 3. 調査結果の概要 ..... I - 3

## II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） ..... II - 1



## I 事後調査の概要



## 1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく令和7年6月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

表-1 事後調査の概要（埋立地周辺における調査 陸域生態系（鳥類））

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	6月5日、6日	4回／年（3年毎に実施） （5月、6月、8月、2月）

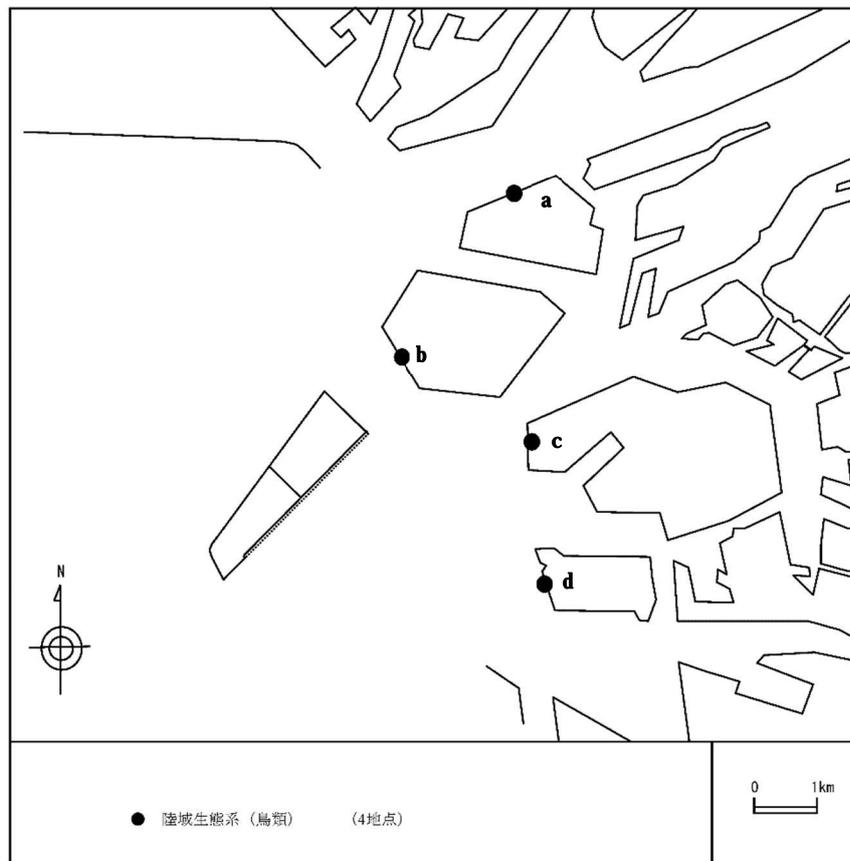
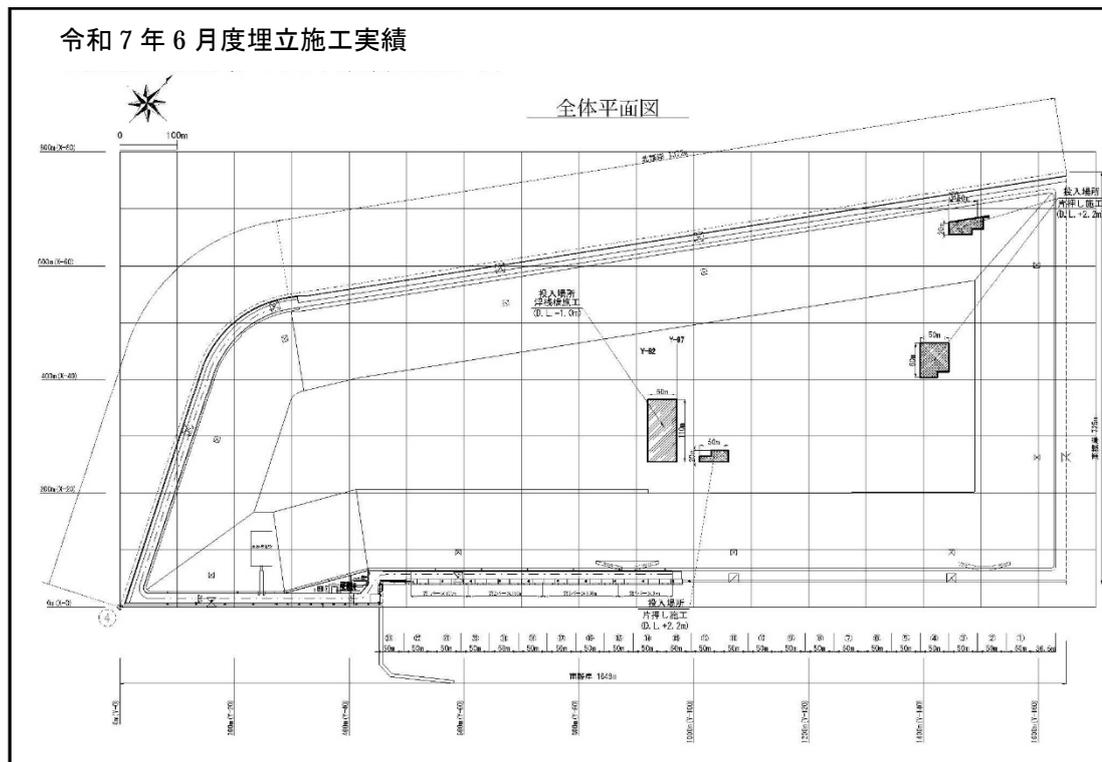


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点

## 2. 工事の実施状況

令和7年6月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋立量(m <sup>3</sup> )	進捗率(%)
8,236,393.8	58.9

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m<sup>3</sup>

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

### 3. 調査結果の概要

#### 埋立地周辺における調査

##### (1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で7目18科22種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点cが最も多く34羽であり、次いで調査地点aの26羽、調査地点dの19羽、調査地点bの9羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点cが最も多く12種であり、次いで調査地点aの11種、調査地点dの9種、調査地点bの6種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点cにおける主要な出現種は、コアジサシ(チドリ目カモメ科)、ムクドリ（スズメ目ムクドリ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、ハシブトガラス（スズメ目カラス科）、スズメ（スズメ目スズメ科）であった。

事業実施前（平成10年6月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）に実施した6月の結果は、4地点合計で9目19科26種であり、本年度は事業実施前と比べて種数がやや少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分		平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月			
出現状況	目	8	8	10	9			
	科	18	17	21	19			
	種	35	37	37	26			
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ	(35.4%)	ヒドリガモ	(18.1%)	トウネン	(32.2%)	ムクドリ	(42.6%)
	トウネン	(27.2%)	ホシハジロ	(11.0%)	コアジサシ	(8.4%)	スズメ	(12.3%)
	カワウ	(8.8%)	キンクロハジロ	(7.6%)	シロチドリ	(7.3%)	ツバメ	(12.3%)
	カルガモ	(7.1%)	カワウ	(6.1%)	アジサシ	(4.5%)	コアジサシ	(9.6%)
	スズメ	(4.5%)	スズメ	(5.0%)	ハシブトガラス	(4.3%)	ドバト	(6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

前回調査（令和 4 年 6 月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）と比較すると、この時期に個体数が多いコアジサシは令和 4 年度が 4 地点合計で 35 羽、本年度は 20 羽であり、本年度はやや少なくなっていた。コアジサシは両年度ともに調査地周辺でコロニー（集団営巣地）等の営巣地は確認されなかった。一方、調査地周辺は餌場として利用している個体が確認されており、前回調査時には餌となるイワシ等の群れが存在する時に、集団で採餌する姿が確認できている。よって、本年度は調査日に採餌または採餌しながら通過する個体が少なかったと考えられる。令和 4 年 6 月の調査結果を表-3 に示す。

表-3 陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和 4 年 6 月分]

調査日：令和 4 年 6 月 5 日、8 日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	5	5	6	4	7
	科	8	13	8	6	18
	種	9	21	8	8	29
出現個体数		20	88	22	50	180
主な出現種 (個体数、組成比率)		スズメ (5羽、25.0%)	スズメ (20羽、22.7%)	カワウ (9羽、40.9%)	コアジサシ (20羽、40.0%)	コアジサシ (35羽、19.4%)
		ムクドリ (3羽、15.0%)	シロチドリ (18羽、20.5%)	ヒヨドリ (3羽、13.6%)	アジサシ (10羽、20.0%)	スズメ (30羽、16.7%)
		ハシブトガラス (3羽、15.0%)	コアジサシ (12羽、13.6%)	ハシブトガラス (2羽、9.1%)	カワウ (8羽、16.0%)	カワウ (21羽、11.7%)
		カワウ (2羽、10.0%)	カイツブリ (6羽、6.8%)	トビ (2羽、9.1%)	スズメ (5羽、10.0%)	シロチドリ (18羽、10.0%)
		コアジサシ (2羽、10.0%)	キョウジョシギ (3羽、3.4%)	カイツブリ (2羽、9.1%)	カワラヒワ (3羽、6.0%)	アジサシ (10羽、5.6%)
		ヒヨドリ (2羽、10.0%)	カルガモ (3羽、3.4%)	ムクドリ (2羽、9.1%)		
			ツバメ (3羽、3.4%)			
			トウネン (3羽、3.4%)			

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位 5 種を示した。

## II 事後調查結果



陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和7年6月分〕

調査日：令和7年6月5日、6日

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥			4		4
2	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	移入種	1				1
3			キジバト	留鳥			1		1
4	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	6	1		4	11
5	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥	1	1	1		3
6	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥			1		1
7		カモメ科	コアジサシ	夏鳥	4	4	10	2	20
8			アジサシ	旅鳥				1	1
9	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	留鳥			1		1
10	スズメ目	カラス科	ハシボンガラス	留鳥			2		2
11			ハシブトガラス	留鳥	3	1	3	2	9
12		シジュウカラ科	ヤマガラ	留鳥			1		1
13			シジュウカラ	留鳥			1		1
14		ツバメ科	ツバメ	夏鳥	2				2
15		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	3	1		2	6
16		セッカ科	セッカ	留鳥	1	1		1	3
17		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥			6		6
18		ヒタキ科	イソヒヨドリ	留鳥				1	1
19		スズメ科	スズメ	留鳥	2		3	5	10
20		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥				1	1
21	アトリ科	カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）	2				2	
22	ホオジロ科	ホオジロ	留鳥	1				1	
合計（7目18科22種）				目数	5	4	6	3	7
				科数	11	6	10	8	18
				種類数	11	6	12	9	22
				個体数	26	9	34	19	88

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和6年度生物リスト」（国土交通省 2024）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（(財)日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和7年6月分]

調査日：令和7年6月5日、6日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	5	4	6	3	7
	科	11	6	10	8	18
	種	11	6	12	9	22
出現個体数		26	9	34	19	88
主な出現種 (個体数、組成比率)	カワウ (6羽、23.1%)	コアジサシ (4羽、44.4%)	コアジサシ (10羽、29.4%)	スズメ (5羽、26.3%)	コアジサシ (20羽、22.7%)	
	コアジサシ (4羽、15.4%)	カワウ (1羽、11.1%)	ムクドリ (6羽、17.6%)	カワウ (4羽、21.1%)	カワウ (11羽、12.5%)	
	ヒヨドリ (3羽、11.5%)	アオサギ (1羽、11.1%)	カルガモ (4羽、11.8%)	コアジサシ (2羽、10.5%)	スズメ (10羽、11.4%)	
	ハシブトガラス (3羽、11.5%)	ハシブトガラス (1羽、11.1%)	ハシブトガラス (3羽、8.8%)	ハシブトガラス (2羽、10.5%)	ハシブトガラス (9羽、10.2%)	
	ツバメ (2羽、7.7%)	ヒヨドリ (1羽、11.1%)	スズメ (3羽、8.8%)	ヒヨドリ (2羽、10.5%)	ヒヨドリ (6羽、6.8%)	
	スズメ (2羽、7.7%)	セッカ (1羽、11.1%)			ムクドリ (6羽、6.8%)	
	カワラヒワ (2羽、7.7%)					

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[令和7年6月分]

調査日：令和7年6月5日、6日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	23.1%	1	カモメ科	1	44.4%
2	カモメ科	1	15.4%	2	ウ科	1	11.1%
3	カラス科	1	11.5%	2	サギ科	1	11.1%
3	ヒヨドリ科	1	11.5%	2	カラス科	1	11.1%
5	ツバメ科	1	7.7%	2	ヒヨドリ科	1	11.1%
5	スズメ科	1	7.7%	2	セッカ科	1	11.1%
5	アトリ科	1	7.7%				
8	ハト科	1	3.8%				
8	サギ科	1	3.8%				
8	セッカ科	1	3.8%				
8	ホオジロ科	1	3.8%				

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモメ科	1	29.4%	1	スズメ科	1	26.3%
2	ムクドリ科	1	17.6%	2	ウ科	1	21.1%
3	カラス科	2	14.7%	3	カモメ科	2	15.8%
4	カモ科	1	11.8%	4	カラス科	1	10.5%
5	スズメ科	1	8.8%	4	ヒヨドリ科	1	10.5%
6	シジュウカラ科	2	5.9%	6	セッカ科	1	5.3%
7	ハト科	1	2.9%	6	ヒタキ科	1	5.3%
7	サギ科	1	2.9%	6	セキレイ科	1	5.3%
7	チドリ科	1	2.9%				
7	カワセミ科	1	2.9%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。